

「ディープフェイクと邯鄲の夢」

坂口 裕靖

我々はどうやったらメディアが流す情報を信じられるのだろうか。

旧来からあるメディアが流通経路を変えただけの場合、旧来のメディアが保持していた信用度の大部分は、新規流通経路に対しても適用される。これはブランド効果ということだろう。旧来からあるメディアが信用できるなら、新規流通経路で流れてきた情報も、まずは信用できるとして受け取っても良いだろう。まあ、実際にその経路での情報を信用できるかどうかについては、徐々に経験を積んで判定していくしかないのだが。

あるいは、そうやって流れてきた情報が複数経路にまたがっていて、かつソースが異なるのであれば、相互に比較することで判定できるかもしれない。まずは実際にそういうことが発生したのかどうか、発生したとして情報に記載された規模などに誇張や矮小がないのかどうか。その事象に対する評価が的を射ているのか、見当外れなのか。まあここら辺については、ニュース

を専門とする流通経路で流れてきたものを一つの基準として、SNSなどの経路で届いた情報と突合していくことになる。もしかしたら現場に立ち会ったヒトが流してくれた情報があるかもしれないし、便乗した全く関係ない情報なのかもしれない。このあたりの見分けをするのは結構難しい問題だ。

信用度を測る基準の一つとして、何で表現されているか、という物がある。テキストは軽くて速報性が高いが、嘘を付くのも簡単だ。一方静止画については、なんらかの補正が施されているかも知れないが、それらを割り引くことで、写っている事象が光学像として実在した、という強い推定が可能である。動画、特に音声付き動画については、タイムリーに全くのでっ上げを上手に作り上げるのは困難であろう、という前提により、かなり信憑性が高いものとして考えられる。しかしながら、我々はすべての場所を知っているわけでないし、その場所がどういう見た目のか、どういう音響環境なのかを知り尽くしているわけで

はない。壁と道路っぽいものが写っていて、高速道路と言われればそうかもしれない、そうなのだろう、と思ってしまう。残念ながら、我々は道路の傷や亀裂、隙間から見える風景などから、提示された画像や映像が本当にその場所に該当するかどうか、同定できるだけの能力も知識も持ち合わせてはいないのが普通だ。それでもまだ、身近な風景であるのなら、場所を確定できるかもしれない。映像のキャプションが正しいかどうかを判定できるのは、その稀有な状況だけだ。だとしても時空のうち空間が決まっただけなので、時間軸の方については不確定。こうした状況でもまあ信用してしまうのは、結局のところ「他人事」だからであり、その情報が正しかろうか間違っていようか、自分に悪影響を及ぼさないからだ。間違っても影響ないから、気にせずいられるわけだ。

しかし今後、映像は確実に「タイムリーに全くのでっ上げ」が可能となる時代になっていく。この時の良し悪しは置いて、

One Point BUZZ WORD

Sesame mini

家のドアにいわゆるスマートロックを設置してみました。基本的にはドアの内側、カギを閉めるノブ（サムターン）にかぶせるように設置して、スマホのアプリから開けたり閉めたりできるようにするものです。各社から色々な製品が出てますが、落ちにくいという噂と、比較的安価であるということから、sesame miniにしてみました。

まず最初の関門が、調整箇所の多さです。サムターンを回す部品の幅が3通り、高さが3通りあるのに加え、本体をドアに固定するための土台の高さが5通り選べます。この中から最適な組み合わせを選ばなければなりません。高さが足りないと固定できないですし、高すぎると不安定になります。一方でサムターンを回す部分の幅は3通りしかないため、基本的にガバガバだったりします。毎回反止めしては位置を変えて、というのを繰り返す必要がありましたが、まあなんとかベストっぽい設定は決まり

ました。一つアドバイスするなら、サムターンが最も軽く回るように調整するのが良いと思います。じゃないと、サムターンを回す負担に負け、剥がれてしまうんじゃないでしょうか。

本体（もしくは土台）は、ドアに3Mのコマンドタブで固定します。アルコールで拭きまくってから貼り付けました。後はアプリとbluetoothで接続し、全開時と全閉時の角度を登録すれば初期化は完了。実際には接続を確立し、開閉できるようになるまで多少時間がかかりますが、まあ許容範囲。近づく自動で解錠という機能もあるのですが、確実性を狙ってパス。またタイマーでオートロックをかける機能もあるのですが、閉め出されるのが怖くて使ってません。実は電池切れとコマンドタブ剥がれも怖いので、今の所は物理カギと併用している状態だったりします。手軽に試せるしかなり安定してるんだけど、全幅の信頼を寄せられるかどうかについては、正直ベータテスト中。カギは難しいネ。

近所のコンビニの写真と友達の車の写真を与えると、その車が勢いよくコンビニに突っ込んで窓ガラスが砕け散る様子がリアルな動画ファイルとして手に入れられるようになるだろう。もしかするとリアルな音声もレンダリングできるかもしれない。いや、多分できるようになる。あるいは立体で手ブレ付きとかも当然可能だろう。さて、この映像とともに、急を知らせるようなメッセージが届いたとしたら、それを信じないでおけるだろうか？

このレベルになると、生成された画像には当然違和感は存在しない、はず。したがって、見た目のショボさでフェイクとわかるようなことはないし、普通に見ている状態での破綻は感じられない。ガラスの割れ方や飛び散り方も物理法則通りかつ劇的で、少なくとも破綻や違和感を感じることはできない。照明もばっちり、飛び散る破片から反射した光もきっちり齟齬なく描写されているし、動画としての動きに不自然さもない。プレーキ音や衝突音のリアルさに違和感はないし、破片が地面にぶつかるタイミングで、それらしい音がきちんと同期している。しかも写っている（ように思う）のは知ってるコンビニだし、知り合いの車で、しかも映像を見る限りなんか大変な事態になってる。で、その車の持ち主である知り合いと待ち合わせしているときに、この映像が流れてきたら、どうなるだろうか。もはや「関係ないから嘘でも本当でもどっちでもいいや」とは言われてられない状況になるのではなからうか。

こういった「個人的には重大事件だが、世間的にはどうでもいい」ニュースは検証するのが大変難しい。仮にその知っているコンビニがすぐ近くにあるのなら、急いで見に行けば良い。本当に事件が発生したのなら確認することができるだろうし、何も起こってないのであればニュースの方が嘘ということになる。

では、すぐに見に行けないところで起こったと言われた場合、どうすればそれを信じていることができるだろうか。今、現地かどうかというのは、離れた時空にいる自分には確認のしようがない。まあ対象となった場所の近くに知り合いがいるのであれば、そこに連絡して確認するというのもできよう。ただし、連絡を取った先の相手が、その場でどっち上げられた映像でないのなら、だが。現時点で違和感なく電話なりskypeなりの受け答えをできるようなプログラムは考えづらいが、今後確実に進化するだろう。これと似たようなことは実は現在でも起きていて、先日電話をしたところ、あまりに安定した声質とトーン、ボリュームなのでてっきり録音かとおもったら、人間が相手だったということがあった。まあこれの主客が逆転した世界なので、想像に難くはない。となると、情報を聞き出すとする相手がそのようなエージェントかどうか、見分けるのは難しいはずだ。

コンテンツの生成テクノロジーが十分進化して、その真贋をクオリティから判断できなくなった場合、我々はうかつに信じることはできなくなってしまふ。自身の五感で取得できる範囲を超えて信頼できるためには、流通経路を信用できなければならぬ。時間的にも空間的にも離れた場所で起こったと言われる情報が、本当に起こっているかどうかをメディアの手助けなしに確認することは難しいだろう。そうすると結局、どうやらメディアを信用できるのか、という問題をいかに解決するかにかかってくる。

これで終わりと思うでしょ？でも違うんだな、これが。我々が体験している世界は、脳が作り出したビジョン、いわば幻影である。外部刺激を脳がなんやら処理加工統合して、感じているものを現実と呼んでいるだけだ。それがどれくらい外界の真の姿に近いのか、遠いのかは、脳の外に出てみないとわからない。現実として無矛盾に受け入れられているのは、自分の身体という入力デバイスにおいて無矛盾なだけであり、本当に起こっていることと関連している必要はない。脳に直接介入可能なメディアデバイスが導入されたら、どうなるだろう。脳が現実として受け取る情報は、処理の途中で加工され、捻じ曲げられるかも知れない。しかもそれを補正するための十分な情報は、脳を通じてしか供給されず、結局比較も何もできない。我々は、そのうちのこの状況に直面するかもしれない。ことここに至ると、もはや現実と白日夢の区別をつけることは難しくなる。なんとかして「信じられるメディア」を入手する方法を編み出さないと、皮膚の外側数ミリでさえ、遠すぎて真贋を判定しきれない状況に陥ってしまう。…かも。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.

映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する



MA室ブース各種編集室

新設、リニューアルに関わらず何でもご相談ください。

～映像・音響専門で
41年～

(映像・音響・防音・建築・設計・施工)

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL 044-853-0547 受付 044-852-1588

(社)日本ボストプロダクション協会会員 / (社)日本音楽スタジオ協会会員
(社)日本音響学会会員

http://www.takahashi-kensetsu.co.jp
info@takahashi-kensetsu.co.jp